

シビックデザインラボ  
社会包摂デザイン研究会・勉強会

# 社会包摂と創作活動

脚本家

港岳彦

主な作品

『蜜のあわれ』  
『夏美のホタル』  
『あゝ、荒野 前篇・後編』  
『宮本から君へ』  
『CHAIN／チェイン』  
『MOTHERマザー』  
『とんび』

3/22 水  
14:00-15:10 無料

九州大学大橋キャンパスデザインコモン 2 階  
現地参加 50 名, オンライン 100 名まで申込み先着順

右下の二次元バーコードからお申し込み下さい

2022年の国連の審査結果からも、マイノリティや当事者を理解し、寄り添い、意見や意思を汲み取りながら、制作、創作できるデザイナーや技術者が日本に希求されています。

マイノリティに関する映画の脚本制作に、多く携わってこられた港岳彦先生にどのように執筆をされているのか、をお話しいたできます。

また現地に赴いたり、インタビューをする、関連書籍の読み込み、過去の経験の言語化など、シナリオ作成をどのような手段で行なっているのか、また、マイノリティを描く際の手立てや教育現場でどのように社会包摂ができる人材を育成するべきかなども伺います。

聞き手:工藤真生 芸術工学研究院メディアデザイン部門



## 『とんび』

監督/瀬々敬久 脚本/港岳彦 原作/重松清  
出演:阿部寛、北村匠海、薬師丸ひろ子、杏  
(2022年製作/139分)

『とんび』が描くのは、母を喪った子どもと父が、単身家庭で懸命に生きていく姿です。学もなく暴れん坊だが、人一倍子煩悩な昭和の父。「とんびが鷹を生んだ」と言われるほど対照的な優等生の息子。そんな父子を支えるのは、子のない夫妻やかつて子を捨てた母、そして凜とした生き方を貫くシングルマザーです。血のつながりではなく、社会の宝である子どもを未来につなぐために奮闘する大人たち。その姿が笑いと涙の中で生き生きと描かれています。



お申込みはこちらから